

図書館だより

vol.33
No.4

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

北海学園大学附属図書館報 第33巻4号(通巻200号) 2012.1.20



画・川田裕之

CONTENTS

| | | | |
|---|---|-------------------------------|-----|
| ドン・キホーテ教授かく語りき 小島康次 | 2 | 平野研 私が薦めるこの1冊 | 5 |
| 地の涯に 新村正人 | 3 | 卒業年次・修了年次の皆様へ | 5 |
| Reading for pleasure in the Digital Age Suzanne Yonesaka | 4 | ブックハンティング | 6・7 |
| | | アルバイトーク/図書館からのお知らせ/編集後記 | 8 |

異文化間ディスコミュニケーションの すすめ (その2)

●図書館長 小島康次

今年度最後のエッセーなので、ドンキホーテ教授という綽名の由来をお話しましょう。

私が騎士道物語に初めて接したのはテレビの連続ドラマで、スコット原作『アイヴァンホー』でした。昭和30年代、ようやく各家庭にテレビ（勿論、白黒です）が普及し始めた頃のことです。思春期にさしかかった私は、いわば西洋の時代劇に大人の（ロマンチック・ラブの）世界を垣間見た気がしました。舞台は12世紀末リチャード1世のイングランドで、紛れもなく中世の騎士道をテーマにした作品でした。主人公の騎士ウィルフレッドや義賊ロクスリ（ロビンフッド）のカッコよさ、ヒロイン、レベッカの美しさ（映画『アイヴァンホー』ではエリザベス・テーラーが演じていました）に憧れたものでした。子ども心に感じたロマンチック・ラブへの憧憬は、日本の時代劇からは得られないものでした。

河合隼雄は、物語には人間の無意識に隠されたモチーフ（動機）が表現されていて、人類共通の普遍性をもったイメージ（ユングはこれを「元型」と呼びます）を見出すことができるとしました。西洋のお伽話に、すでに騎士道物語の中のロマンチック・ラブの原型となるようなストーリーが見られます。『眠れる森の美女』は、魔女（グレートマザー¹⁾（母親の化身）の恐ろしい面の呪いによって眠りについたお姫様が王子の愛によって魔法を解かれ（母親から分離し）、めでたく結婚し幸福になるという物語です。

河合隼雄によれば、浦島太郎も初期の頃（『日本書紀』にまで遡れます）は結婚がテーマとなっていたそうです。「…丹波の国の人、瑞江浦嶋子（浦島太郎）、舟に乗りて釣す。遂に大亀を得たり。たちまち女に化爲る。是に浦嶋子たけりて婦と爲し、相したがいて海に入りぬ。…」と簡単なものでした。いつの頃からか亀と乙姫は分離して、仏教の報恩（恩返し）思想と結びついた説話になります。新バージョンでは、浦島は結婚もせず、現世（竜宮の三年が此の世では三百年でした）に戻ってみると頼りの母親もすでになく、困り果てて玉手箱を（禁忌を破って）開け、中から出た煙で老人になるというお話です。

私たちは西欧の物語に憧れを抱いたとしても、それを身近なものとして感じられません。やはり、浦島太郎、かぐや姫、桃太郎（いずれもロマンスも結婚もない）を近いものと感じます。それは幼い頃から繰り返し聞かされてきた物語だからとばかりは言えないようです。そ

こには母親に包み込まれる心地良さをベースにした共同幻想が働いているように思えるのです。

西欧の個人主義の背後には、母親に代表される保護者からの分離（自立）と父親に代表される社会からの分離（独立）という二重の分離が必要条件としてあると言われる。西洋のおとぎ話から騎士道物語までのテーマは「母子分離」であると考えられます。けれども、それだけでは自我が個として自立するには不十分です。社会（父性）からも分離（独立）する近代へのステップを具事に描き出した文学作品が『ドンキホーテ』でした。

『ドンキホーテ』は前編と後編とで趣が大きく異なります。前編はいわば騎士道物語を揶揄するパロディに近いものにすぎませんでしたが、後編となるとバフチン²⁾が高く評価したようにシェークスピアやラブラーに並ぶ多声性（ポリフォニー）文学の系譜（ドストエフスキーによって完成された）に位置づけられます。近代小説の草分け、フローベールやスタンダールがセルバンテスを『わが師』と呼んだのも故なしとしません。

西欧の父性原理に対して母性原理を背後にもつ日本では、個人の自立を支える個の論理よりも集団の秩序を支える場の空気を読む（これができないとKYと非難される）感覚が重視されます。近代社会としてのタテマエ（個の論理）と伝統社会のホンネ（場の論理）との間の対立は教育現場においてとりわけ厳しいようです。FD³⁾などを通じて大学教育もまた母性原理に屈しつつあるように感じます。学生に分かり易い授業をすることと、学生を甘やかすこととは違います（FDに反対なのではありませんので誤解なきよう。学生による授業評価に対して私は以前から大賛成で、すべて公表すべきだと考えています）。数年前から私は私語をする学生、立って歩く学生に対して大声で怒鳴ります。敢えて感情を抑えないのです。自分の内なる母性原理という風車に向かって槍を突き立てる私もドンキホーテの末裔なのかもしれません。

注

- 1) グレートマザー：ユングの元型の一つで「太母」と訳され、乳児の中に自我が芽生える際に、慈しみ育てる善い面と呑み込み自我を破壊する恐ろしい面の両面をもつとされる。
- 2) バフチン：ロシアの文芸評論家であるが、その著作は言語学、精神分析、社会理論、人格哲学等々多岐にわたる。現在、二十世紀を代表する思想家の一人に数えられている。
- 3) FD：大学における授業改善を指す用語「ファカルティ・ディベロップメント」の頭文字をとった略語。



地の涯に

文＝**新村正人**

(にいむら まさと／大学院法務研究科教授)

一般の家庭ではまだ石炭ストーブを使うのが普通だった昭和40年代初頭のある年の冬、青函連絡船で海峡を渡りようやく札幌にたどり着いた若い男女があった。二十歳前後の貧しい者同士が互いに好きになったというだけで大阪で一緒になった夫婦であったが、夫は定職につくことができず、北海道に行けば何かなるであろうと新天地に夢をかけてはるばるやって来たのだった。一部屋だけのアパートを借りて、毎日職を探して歩き回ったが、仕事を見つけることができず、わずかな所持金も減る一方で、雪は降り積もり、身寄りもない北国で、経験したことがないような寒さが身に沁み心細さは日に日に増すばかりであった。やがて身も心も疲れ果てた二人は、いっそ死んでしまった方がいいなどと口にするほど絶望に打ちひしがれていた。ある日、その日も一日職を探して空しく帰って来た夫は、今後のことについてあれこれ考えあぐねた末、もはや希望を持てなくなり、夜も遅くなってから、死のうと妻に語りかけた。寝てしまった妻の顔を見ながら夫はガス栓を開け放ち、妻に寄り添って寝た。明け方ふと目が覚めた夫は、妻が息絶えていることに気づき、自分が死に切れないでいることを悔やみ、後を追おうと剃刀で手首を切ったが、隣室の住人がガスの臭いに気が付いたため、命を取りとめてしまった。

地の涯に倅せありと来しが雪

北海道の俳人細谷源二の有名な俳句の境地そのままの寒々とした哀れな境涯であった。

その前年アカシアの白い花が咲くころ、私は細谷源二に会っていた。岳父が函館での出張用務を終えてから、出産間近の娘を見舞いに札幌に回って来て、俳句仲間の某氏から、源二に会ってみたいかと誘われ、私も随って行ったのである。某氏の経営する建設会社の材料置場が札幌駅前であり、源二はその管理責任者として勤務していた。白晳、決然とした面持ちで、異様なほどの目の光が印象的であった。

源二はもと東京の人で、戦前から工員としての生活に根ざした作句活動をしていた。昭和16年新興俳句

弾圧により検挙され2年半の獄中生活を送った挙句、空襲で家財のすべてを失い、戦後開拓移民団として北海道十勝の豊頃村に入植したが、その生活は辛酸を極めた。のち砂川で旋盤工として勤務し、定年後札幌に移住したが、終始働く者の俳句を標榜し、代表作の一つに次の句がある。

鉄工葬をはり真赤な鉄うてり

源二俳句の一頂点とされる地の涯の句も、入植者の悲哀が、あからさまでなく憂愁を漂わせて表現されており、北海道の俳句を語るときはまず挙げられる名句であるゆえんであろう。六十四歳で亡くなっており、私が会ったのは六十前後のころの源二である。死後40年以上も経った今、俳句人口は飛躍的に増えたが、経済的に豊かになり、おしなべて中流意識となっている現時の世情からすると、北海道でも、世代が若返っていることもあって、源二という俳人を知る人は少なくなっているのではなからうか。

ところで、さきの死に切れなかった若い夫は回復後身柄を拘束されて司直の手にゆだねられ、検察官は殺人罪で起訴した。妻の承諾の有無が争点となり、札幌地方裁判所は審理の末、刑法202条の嘱託殺人の訴因を採用し懲役3年の刑を言渡した。私は合議体の一員としてこの裁判に関与し、判決言渡しに立ち会った。殺人でなく嘱託殺と認定したことはわずかに救いとなったが、この被告に3年の実刑を科することにどれほどの意味があるか思い悩み、何とも切なくやりきれない思いに終始した。長い裁判官生活でいつまでも記憶に残る事件となり、その後北海道に勤務する機会があつて冬を迎えると、常に源二の件の一句とともに思い起こすのである。(諸種の配慮から、事実関係は実際と多少異なるように記述した。)

(この一文を書くに当たって「北海道俳句史」(北海道新聞社)及び「現代俳句大辞典」(三省堂)を参照したが、本学図書館のレファレンス係のお世話になった。)



Reading for pleasure in the Digital Age

Suzanne Yonesaka

(米坂スザンヌ／人文学部教授)

There is a temperate zone in the mind, between luxurious indolence and exacting work; and it is to this region, just between laziness and labor, that summer reading belongs. ~ Henry Ward Beecher

When classes are in session, I usually don't have time to read for pleasure. I read students' papers, I read linguistics materials for lectures, I read research papers. But when it comes to reading for enjoyment in the evening, I'm often asleep before I can turn the page.

For me as for many others, reading for pleasure is a pastime reserved for vacations. In America, summer vacation means lying on the beach, shaded by a beach umbrella or a huge floppy hat, reading a thick paperback-- something I've never seen in Japan. In Sapporo, winter break is, of course, the time to curl up with a stack of books, your dog or cat, and your drink of choice.

In early December as the snowflakes started to fall, I thought to myself, what am I going to read this winter? Instead of checking out the *New York Times Book Review*, I simply put it to my friends on Facebook: what do you recommend? Within hours, I had a long list of books and authors, a list of astonishing breadth and variety.

Friends recommended vacation-worthy science fiction and mysteries and historical novels, all thick enough to last through a Hokkaido winter. The newest novel by an old favorite, Native-American writer Louise Erdrich. Even poetry. I was delighted when a friend, himself a writer, recommended Arab-American poet Naomi Shihab Nye. "Oh, you've read her, too?" It was like meeting someone at a party and finding that you have friends in common.

I was impressed by the heavy dose of respect for the past. Friends suggested books on 16th century British

history and on 20th century US history. My brother-in-law praised Sarah Bakewell's biography of the 16th century thinker Michel de Montaigne. I was urged by several friends to read the eminently quotable Victorians Charles Dickens and Anthony Trollope. Some books never go out of style!

There were votes for the English translations of *The Millennium Trilogy* by Swedish author Stieg Larsson and for Haruki Murakami's *1Q84*. Because the internet has transformed the way translators work, more non-English-language writers are accessible to readers of English than ever before. What a wealth of writing we can get our hands on today!

The other interesting thing is *how* my friends and family are going about getting their hands on these books. One friend with a large house has collected what must be thousands of books. Some are rare or particularly beautiful books that she tracked down using an online network of used-books dealers. Friends in small apartments stock up on paperbacks, then resell them online and buy more. Others download e-books for their iPads or Kindles. A Filipina grandmother I know listens to audiobooks on her i-pod.

Book lust: Three days after hearing about a great read, you can have it in your hands via Amazon. Or you can download it instantly for immediate gratification. Japanese publishers seem to be reluctant to get into the e-book market, but this won't last forever. Books are like anything else--the more choices you have, the more you want. Whether it's a richly-bound first-edition, a cheap paperback, an e-book, or an audiobook, the more the better.

Time to go order my stack of winter reading from Amazon. But next summer, I might just be taking an iPad to the beach.

私が薦める この1冊

夢枕獏著

『瑠璃の方船』(文春文庫、1998年)

文=平野 研

(ひらの けん/経済学部准教授)

「これまで、自分の限界ぎりぎりの状態で何かをしたことなど、ただの一度もほくにはなかった。好きな物語を書くことでさえ、それをしたことは無かった。今が、それをする時ではないか。」

今回、この文章を書くにあたって本書を読み返す際に見つけた、13年前の私が蛍光ペンで線を引いた一文である。自分が何者であるのか、自分の居場所はどこか、と苦悩する20代後半の自分がそこにはいた。

この本は、伝奇バイオレンス作家として知られる著者の唯一の自伝的小説である。大学卒業時の就職失敗、2年後に就職した出版社の倒産、技量はあるながらプロ将棋士になれない友人、婚約者が自殺した友人、様々な想いと覚悟を胸に著者は自分の居場所としての机の前に座る。2ヶ月半、ただ書き続ける。丸い、下手な文字を原稿用紙の枘目の中に埋めてゆくという、気の遠くなるような作業。やがて筆は加速し、「もったいない」スピードで小説の終わりを書き上げる。その小説を機に著者は「書き手」として揺るぎない評価を得る。

魂を焦がすような「書き手」の原点は、大学院生として論文と格闘する私の胸にも火種を残していった。

現在、私は本書を書いた当時の著者の年齢と同じ40歳。自分の原点を振り返るという作業を本書で著者がした意味が改めて胸に迫る。新たな想いと覚悟で、やはり自分の居場所としての机に向かう。もう一つの原点がそこにはあった。自分が何者であるのか、自分の居場所はどこか、という問いは生涯のものであろう。だからこそ、歩みを続けるための楔としての原点が胸に点されていくのだろう。

再び私は本書に蛍光ペンで線を引いた。それは13年前とは違う色であったが、またいつの日か本書のページを開いた時に、40歳の私と出会えるように。

「ひとつの表現、ひとつの場所にとどまっているのは、旅ではない。常に次の場所に向かって、足を踏み出し続けねばならない。」

卒業年次・修了年次の皆様へ

●図書館の貸出資料の返却のお願い

卒業年次・修了年次の方の図書館資料の利用期限は、卒業証書・学位記授与式前日までです。貸出を受けた図書館資料は忘れずに返却をお願いいたします。

今年度の利用期限は、
平成24年3月19日(月)です。

卒業年次・修了年次の方で次年度4月以降も本学に在籍する場合は、図書館資料の継続利用が可能です(大学院生の研究図書など)。

継続利用を希望する場合は、サービスカウンターに申し出てください。

●卒業・修了後の本学図書館利用について

本学を卒業・修了された方は、卒業後も図書館も利用することができます。

ただし、改めて利用登録が必要になりますので、卒業・修了後初めて図書館を利用される際は、必ずサービスカウンターで利用登録を行ってください。

希望者には**ライブラリーカード**を発行しております。ライブラリーカードの発行により図書館資料の貸出が可能になります。(ライブラリーカードは年度更新です。)

貸出冊数は5冊、貸出期間は15日間です。

なお、本学定期試験に伴い利用をご遠慮いただく期間もありますので、ご了承のうえご協力をお願いいたします。

Book hunting!! ブックハンティング!!

図書館ではブックハンティングを行っています。これは何かと言いますと、大学では必要がない(研究では使わない)と思われるような本でも、学生に興味や関心のある本を直接書店で選んでもらい、図書館で利用できるようにしよう、ということで始まりました。今年度は夏と冬とで2回行いました。簡単ではありますが、今年度の実績を報告いたします。

2011年度ブックハンティング

第1回

日時 2011年6月22日(水)
13:00~16:00(選書時間180分)
場所 三省堂書店 札幌店(ステラプレイス5F)
参加者数 15名(教職員含む)
冊数制限 無制限
総購入冊数/金額 388冊/¥755,471



第2回

日時 2011年11月30日(水)
13:00~16:00(選書時間180分)
場所 紀伊國屋書店 札幌本店
参加者数 8名
冊数制限 1人20冊
総購入冊数/金額 118冊/¥214,354



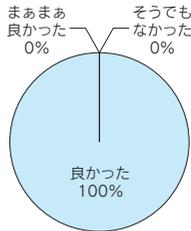
ブックハンティング終了後、学生に選んでもらった本は納品された後、OPACで検索できるようにデータの登録などの処理がされてから、図書館の書棚に配本されます。かなりの冊数があるので、購入した全ての本が揃うのに1ヶ月ほどかかってしまいますが、そこは楽しみに待っていただいています。



I.

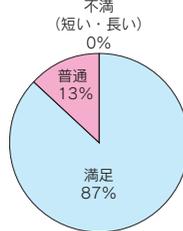
参加して良かったと思いますか？

良かった 15人
 まあまあ良かった 0人
 そうでもなかった 0人



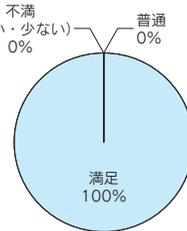
選書時間について

満足 13人
 普通 2人
 不満 (短い・長い) 0人



選書冊数について

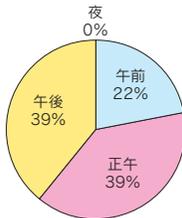
満足 15人
 普通 0人
 不満 (多い・少ない) 0人



II.

次回も参加するなら、どの時間帯が良いですか？ (複数選択可)

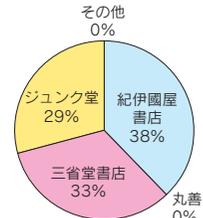
午前 4人
 正午 7人
 午後 7人
 夜 0人



III.

次回も参加するなら、どの書店が良いですか？ (複数選択可)

紀伊國屋書店 8人
 丸善 0人
 三省堂書店 7人
 ジュンク堂 6人
 その他 0人



こんな本が選ばれています

| タイトル | 出版社 |
|-------------------------------|------------------|
| 「IT 断食」のすすめ | 日本経済新聞出版社 |
| いつも楽に生きている人の考え方 | ティスカヴァー・トゥエンティワン |
| よくわかる日本神道のすべて | 講談社 |
| 世界の衣装 | バイインターナショナル |
| 世界のポスト | ピエ・ブックス |
| くつやのねこ | BL 出版 |
| 100万回生きたねこ | 講談社 |
| くちびるに歌を | 小学館 |
| 来たれ、野球部 | 講談社 |
| イラスト 図解モノの呼び名事典：英文対訳付き | 日東書院本社 |
| 13か国語でわかる新・ネーミング辞典 | 学研マーケティング |
| ライブニツツ術：モナドは世界を編集する | 工作舎 |
| 謎解きはディナーのあとで、2 | 小学館 |
| 西洋服飾史、図説編 | 東京堂出版 |
| きもの：Wonderful Japanese Classi | バイインターナショナル |
| 服従実験とは何だったのか | 誠信書房 |
| 統合失調症：正しい理解と治療法 | 講談社 |
| 道徳教育はホントに道徳的か？：「生きづらさ」の背景を探る | 日本図書センター |
| 受験英語と日本人：入試問題と参考書からみる英語学習史 | 研究社 |
| 日本人にとって英語とは何か：異文化理解のあり方を問う | 大修館書店 |
| 幾瀬幸一准教授のスタイリッシュな生活 | 文藝春秋 |
| ジュリエット 上 | 角川書店 |
| ジュリエット 下 | 角川書店 |
| 魔女は甦る | 幻冬舎 |
| どぶろくと女 | 酒文化研究所 |

| タイトル | 出版社 |
|----------------------------|-------------|
| 元素検定 | 化学同人 |
| SAPPORO 山ガール | 北海道新聞社 |
| 図解一瞬で人を操る心理法則 | PHP 研究所 |
| 名景世界遺産 自然遺産編 | バイインターナショナル |
| 札幌シティガイド | 札幌商工会議所 |
| 手紙・はがき基本文例集 | 主婦の友社 |
| コアパフォーマンス・トレーニング | 大修館書店 |
| はじめてでもカンタンかわいい犬の服 | ナツメ社 |
| レヴォリューション No.0 | 角川書店 |
| アンダルシア | 講談社 |
| サッカーのメンタルトレーニング | 大修館書店 |
| プレミアム最強ガイド | 講談社 |
| 監督力 | 出版芸術社 |
| 誰にも書ける一冊の本 | 光文社 |
| 大世 | 小学館クリエイティブ |
| 月は怒らない | 集英社 |
| もしもノンフィクション作家がお化けに出会ったら | メディアファクトリー |
| The Beatles | ロッキング・オン |
| 大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック | 金剛出版 |
| 脳ストレスが消える生き方 | サンマーク出版 |
| 実現の条件 本田圭佑のルーツとは | 東邦出版 |
| 下世話の作法 | 祥伝社 |
| 男友だちを作ろう | 筑摩書房 |
| 猫と魔術と神話事典 | 柏書房 |
| 気持ちが良いスヌーピー | 祥伝社 |

※これらはほんの一部です。

来年度も予定しておりますので、詳細が決まり次第、掲示等でお知らせいたしますので、興味のある方はぜひチェックしてみてください。図書館をうまく使うチャンスですよ！

図書館の利用を、大歓迎です！

文＝頼 怡瑄

(ライ イセン)

大学院文学研究科 日本文化専攻 修士課程 2年

本格的な冬を迎えました。今年度ももうすぐ終わりますね。この一年は貴方にとって良い年でしたか？特に、一年生の皆さんは大学生活に慣れることができていますでしょうか？

私は一昨年の四月に大学院に進学することになりました。大学院ではたくさんの専門書が必要となり、また講義と論文資料のために、図書館を利用することも多くなりました。実は、私自身もこのアルバイトを通して、段々図書館の利用が分かってきましたね。

初心者の方、もし本探しに困ったら、焦らずに職員の方の指示どおりに行って、いくら探しくい本でも、職員の皆さんは優しく教えてくれますから、大丈夫だ！もし検索方法が分かってきた頃には、図書館の利用機会もどんどん増えてきますから、いつの間に、ここであなたの姿をよく表しているかもしれないと思います。

図書館で勉強に必要な専門図書はもちろんのこと、就職や国家試験に関する本もたくさんありますよ。図書館は皆さんの就活を応援しています、ぜひご利用ください。もし講義の間に暇つぶしとか、ちょっと気分転換しようと思うなら、個人の好みによって雑誌類も多く揃えています。さらに図書館でDVDを借りたことがありますか？本館では、専門シリーズやエンターテイメント類の映画など、数が豊富ですから、時間があるときにDVDを鑑賞してみてもいいと思います。よく考えれば、それも財布に優しい一つの方法ではないでしょうか。(笑)

図書館はよく知識の宝庫といわれる場所です。皆さんはせっかく宝庫に入ったのに、とにかく自分に相応しい宝物を探してみてください。今まで、全く図書館を利用したことない人、如何でしょうか？ご利用をお待ちしております！

図書館からのお知らせ

図書館の蔵書点検に伴い、下記の日程で図書館（本館・工学部図書室）を休館します。利用者の皆様には、ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

日程：2012年2月20日・21日・22日 3日間

編集後記

図書館だよりは1979年5月の創刊号から今回で200号になりました。200回という節目ですが特にこれという特別な企画はございませんが、毎年続けて発行していているのも、これまで執筆して頂いた先生方やその他関係者の皆様のお力添えを頂いているからこそ続いてきていると感じております。この場を借りまして、御礼申し上げます。ありがとうございます。

図書館のHPから図書館だよりのバックナンバーも閲覧できますので是非ご覧ください。

図書館 AV ブースを一新しましたので、一度利用してみてください。

☆オススメ DVD 本館所蔵 「漫才ギャング」品川ヒロシ監督作品☆

その他にもたくさんの新作DVDが所蔵されていますので是非一度図書館へ！